

11月20日（日） ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 23章16節～28節 （新約 45頁）

メッセージ 「不幸な偽善者」

律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。（マタイによる福音書 23章25節）

（1）ある解説書では、23章は内容から考えて4つに分けられるとありました。当時の指導者たちの偽善ぶりを描き、謙虚であることを初代教会の人たちに勧める2節～12節。7項目に及ぶ不幸の宣言とその理由を語る13節～33節。当時のユダヤ人指導者たちによるキリスト教迫害とその報いを伝える34節～36節。そして、後のエルサレム神殿の崩壊の出来事が背景として記される37節～24章2節です。なお今回は、1回に朗読する長さを考慮して適当な長さで区切っています。

（2）13節からは7項目にわたってファリサイ派や律法学者が非難されています。

第一項（13節）では天の国を指し示す教会を攻撃することによって、自分自身はもちろん、人々が天の国に入ることを阻む事が、また、第二項（15節）ではユダヤ人以上にキリスト教会を攻撃する、ユダヤ人への改宗者を生み出している現実が非難されています。どちらもマタイ福音書が書かれた当時の状況が反映されています。

第三項（16節～22節）は当時の習慣である、「誓い」の有り様が非難されています。神にかけて誓うことが許されていなかったため、神殿にかけて誓うこと、祭壇にかけて誓うことが行われていたそうです。ところが、その誓いが果たされなかった時、神殿や祭壇では不十分だ、神殿の黄金や祭壇の供え物にかけて誓う必要があるとの議論が起こったそうです。ここでは、どちらが尊いのかと問うことによって、議

論そのものが無意味であると指摘します。

第四項（23節～24節）では、収穫の十分の一を献げる事についてです。わずかな香辛料でさえ十分の一を測って献げているのに、最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしろにしていると非難します。24節の、ぶよ一匹を漉して飲むにもかかわらず、あの大きならくだを飲み込んでいるとの非難は23節のたとえです。

第五項では、祭儀にあたって祭司が自分の身を汚さないために器の外側を清める事から、祭司で無い者も器を清めるよう教えていた事を取り上げ、外側は綺麗にしても内側は汚れていると非難します。第六項の白い墓も同じです。なお、当時、墓は不浄な場所とされていたので、暗がりや墓に触れないよう白く塗ることが行われていたそうです。第七、八項は次週説明します。

（3）この箇所では、律法学者たちやファリサイ派の人たちは内側と外側とが異なっている偽善者だと非難されます。ただ、内外が異なっていることは問題なのでしょうか。限界のある私たちですので、内側と外側とが一致することはなかなか難しいと思います。ここでは、異なっていることが非難されているのではなく、ずれているにもかかわらず、それに悩んだり、苦しんだりしない有り様が偽善者であり、不幸だと非難されているのではないのでしょうか。悩み苦しむ私たちをそのまま受け入れて下さるお方、それが聖書の神であると私は信じています。（多田玲一牧師）